

授 業 概 要

【授業科目名】看護学概論

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

看護学の歴史、概念と理論及び看護の対象を理解し、専門職として看護とは何か、看護の役割と機能は何か考え、看護を学ぶ導入とする。

1. 看護・人間・健康・環境等の用語の定義を理解し、専門職として看護とは何かを理解する。
2. 看護の対象である人間と人間の生活を理解する。
3. 代表的看護理論を学ぶ。
4. 健康を支える社会システムを理解し、保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能を理解する。
5. 医療・看護における倫理的問題を知り、看護倫理を考える重要性を知る。
6. 看護観を考える。

回	授業内容	授業方法
1	看護を学ぶにあたって ガイダンス 看護師とは何をする職業か	講義
2	看護とは 看護の本質	講義
3	看護とは 看護の役割と機能 看護の継続性と連携	講義
4	看護の対象の理解 人間の心と体を知ることの意味 生涯発達し続ける存在としての人間理解 人間の暮らしの理解	講義
5	健康状態と生活 健康のとらえ方 国民の健康状態 国民のライフサイクル	講義
6	看護の提供者 職業としての看護	講義
7	看護の提供者 継続教育とキャリア開発 看護師養成制度の課題	講義
8	看護における倫理 現代社会と倫理 医療倫理の歴史的経緯と看護倫理	講義
9	看護における倫理 看護実践における倫理問題への取り組み	講義
10	看護提供のしくみ サービスとしての看護と提供の場	講義

11	看護提供のしくみ 制度と政策 看護サービスの管理	講義 GW
12 13	事例検討	講義 GW
14	広がる看護の活動領域 国際化と看護	講義
15	筆記試験・まとめ	

【テキスト・参考書】

『系統看護学講座 専門分野 基礎看護学1 看護学概論』（医学書院）

『ナイチンゲール 看護覚え書』（現代社）

『ヴァージニアヘンダーソン 看護の基本となるもの』（日本看護協会出版会）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

授業科目名】臨床看護総論

【学 年】1年次

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

【担当者】専任教員

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 健康障害を持つ対象やその家族を理解する。
2. 看護における経過の概念と、各経過における看護の特徴を理解する。
3. あらゆる対象に起こりうる代表的な症状の原因、誘因およびメカニズムと成り行き、看護のポイントを理解する。

回	授業内容	授業方法
1	1. 健康上のニーズを持つ対象者と家族への看護	講義
2	2. 家族の機能からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ 3. 生活と療養の場からとらえた対象者と健康上のニーズ 4. 健康状態の経過に基づく看護	講義
3	急性期における看護	講義
4	慢性期における看護	講義
5	リハビリテーション期における看護	講義
6	終末期における看護	講義
7	呼吸に関する症状を示す患者の看護	講義
8	循環に関連する症状を示す対象者への看護	講義
9	栄養や代謝に関連する症状を示す対象者への看護	講義

10	排泄に関連する症状を示す対象への看護	講義
11	活動や休息障害に関連する症状を示す対象者への看護	講義
12	安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護	講義
13	輸液療法、手術療法・集中治療	講義
14	創傷処置・身体侵襲	講義
15	まとめ 試験	講義

【テキスト・参考書】

『臨床看護学総論』（医学書院）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】看護過程

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 看護における看護過程の意義が説明できる。
2. 看護過程の5つの構成要素の内容を説明できる。
3. アセスメントの視点、観察点を理解し、記述できる。
4. ヘンダーソンの看護論を理解し、枠組みに沿ってデータの整理ができる。
5. 事例を通し、ヘンダーソンの看護論を活用した看護過程の展開ができる。
6. グループワークに積極的に参加し、自分の意見を述べるができる。

回	授業内容	授業方法
1	1. 看護過程とは 2. 看護過程の5つの構成要素とその活用方法 1)アセスメント 情報収集・情報の整理・情報の分析・全体像 2)看護問題の明確化 3)看護計画立案 4)実施 5)評価	講義 GW
2	1)看護記録の種類 2)看護記録管理における留意点 3)守秘義務	講義 GW
3	1. ヘンダーソンの看護理論 ヘンダーソンの看護論を活用した看護過程	講義
4	1. 事例を通し看護過程を展開する。	GW
5	事例紹介 演習1 1)情報の確認・分類・整理1 2)情報の確認・分類・整理2-1 3)情報の確認・分類・整理2-2	発表/確認
6	演習2 4)病理的状態の分析	GW 発表/確認
7	演習3 5)基本的欲求の充足・未充足の判断 14項目 ①正常に呼吸する。 ②適切に飲食する。 ③あらゆる排泄経路から排泄する。 ④身体の位置を動かし、またよい姿勢を保持する。	GW 発表/確認

8	<p>演習 4</p> <p>⑤睡眠と休息を取る。</p> <p>⑥適切な衣類を選び、着脱する。</p> <p>⑦衣類の調節と環境の調整により、体温を生理的範囲内に維持する。</p>	GW 発表/確認
9	<p>演習 5</p> <p><u>基本的欲求の充足・未充足の判断</u></p> <p>⑧身体を清潔に保ち、身だしなみを整え、皮膚を清潔にする。</p> <p>⑨環境のさまざまな危険因子を避け、また他人を傷害しないようにする。</p> <p>⑩自分の感情、欲求、恐怖あるいは“気分”を表現して、他者とコミュニケーションを持つ。</p> <p>⑪自分の信仰に従って礼拝する。</p>	GW 発表/確認
10	<p>演習 6</p> <p><u>基本的欲求の充足・未充足の判断</u></p> <p>⑫達成感をもたらすような仕事をする。</p> <p>⑬遊ぶ、あるいはさまざまな種類のレクリエーションに参加する。</p> <p>⑭“正常”な発達および健康を導くような学習をし、あるいは好奇心を満足させる。</p>	GW 発表/確認
11	<p>演習 7</p> <p>6)患者の全体像</p> <p>7)問題の明確化</p>	GW 発表/確認
12	<p>演習 8</p> <p>8)問題リスト</p> <p>9)看護計画</p>	GW 発表/確認
13	<p>演習 9</p> <p>10)評価</p> <p>11)SOAP 法</p>	GW 発表/確認
14	<p>ヘンダーソンの看護過程を活用した看護過程 まとめ</p>	講義
15	<p>筆記試験・まとめ</p>	

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術 I』（医学書院）

『看護の基本となるもの』（日本看護協会出版会）

『看護過程を使ったヘンダーソンの看護論の実践』（ヌーヴェルヒロカワ）

『ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程』（日総研）

『黒田裕子のしっかり身につく看護過程』（照林社）

【成績評価方法】

筆記試験（70 点）授業態度・授業準備・提出物（30 点）

授 業 概 要

【授業科目名】看護行為に共通する技術

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 基礎看護技術の概念を理解できる。
2. コミュニケーションの意味や方法を理解し、効果的なコミュニケーションを行うための知識・技術・態度を習得する。
3. 感染予防の意義を理解し、感染予防に必要な知識を習得できる。
4. スタンダードプリコーションの概念を理解し、実施できる。
5. 原理・原則に沿った基本的な滅菌操作ができる。
6. 看護実践の場面における安全確保の基礎知識を習得できる。
7. 転倒・転落防止の基礎知識を理解することができる。

回	授業内容	授業方法
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術とは 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術の基本原則 4. 看護技術の構成と求められる範囲 5. 看護技術の遂行に求められる能力 	講義
2 3 4	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの意味 2) コミュニケーションの種類 3) コミュニケーションの基本的要素 4) コミュニケーションの過程 5) 文化とコミュニケーション 2. 効果的なコミュニケーションを成立するための技術 <ol style="list-style-type: none"> 1) 面接の基本 2) コミュニケーション障害への対応 	講義
5	コミュニケーション演習	演習
6	基礎看護学実習 1 の実習での患者とのコミュニケーションを振り、プロセスレコードを用いて効果的なコミュニケーションを成立するために何が必要か考える。	演習
7 8 9	<ol style="list-style-type: none"> 1. 感染とその予防の基礎知識 2. スタンダードプリコーション 3. 感染経路別予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 	講義

	6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 医療施設における感染管理	
10 11 12	《演習》 スタンダードプリコーション 必要な防護具（手袋・ゴーグル・ガウン等）の選択・着脱 感染性廃棄物の取り扱い・無菌操作	演習
13 14	1. 安全確保の基礎知識 インシデント・アクシデント 患者の誤認防止策の実施について 2. 転倒・転落防止	講義
15	試験 まとめ	

【テキスト・参考書】

『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 I 基礎看護学①』（医学書院）
『看護技術プラクティス』（学研メディカル）
『看護コミュニケーション』（医学書院）
『基礎看護技術 I』（医学書院）
『看護が見える①』（メディックメディア）
『基礎看護技術 II 医学書院 看護技術が見える①』（メディックメディア）
『看護技術講義・演習ノート』（医学芸術社）
『看護技術ベーシックス第 2 版』（サイオ出版）
『看護ケアの根拠と技術』（医歯薬出版）

【成績評価方法】

筆記試験、看護行為に共通する技術、レポート

授 業 概 要

【授業科目名】 健康的な生活への援助技術 I

【学 年】 1 年次

【担当者】 専任教員

【単位数】 1 単位

【時間数】 30 時間（1 回 2 時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 活動と休息の意義を理解し、患者が健康生活を送るために必要な援助方法を習得する。
2. ボディメカニクスの基本原理を理解し、対象者と看護者が安全・安楽な移乗・移送方法の基礎を習得する。
3. 休息・睡眠の意義とメカニズムを知り、必要性に応じた休息・睡眠のとり方を理解する。
4. 休息・睡眠に関する障害についてアセスメントでき、必要な援助方法を習得する。
5. 安楽かつ快適さを提供する技術の必要性を理解し、適切に援助することができる。
6. 人間にとっての環境の意味を理解し、健康的な生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。
7. 健康障害のある人の闘病意欲を高める環境について、自立度に応じた環境のニーズを充足する方法を考えることができる。
8. 快適な環境を整えることができる。

回	授業内容	授業方法
1 2	1. 基本的活動の基礎知識 1) 活動・運動の意義 2) 活動・運動のニーズのアセスメント 3) 良い姿勢・ボディメカニクス 2. 廃用性症候群のリスクのアセスメント 3. 自動・他動運動の必要性 4. 援助方法の選択 1) 体位変換 2) 床上運動 3) 立位と歩行 4) 移動・移送	講義
3	1. 援助方法の実際 1) 体位変換 2) 車椅子、ストレッチャーへの移乗・移送 3) 立位と歩行 2. 車いす移乗移送の技術チェック	講義 演習
4 5	1. 休息・睡眠のメカニズム 1) 生体リズム 2) 休息と疲労 3) 睡眠の分類と役割 4) 睡眠調節	講義 演習

	<ul style="list-style-type: none"> 5) 睡眠の多様性 2. 睡眠障害の種類 3. 休息・睡眠のニーズに関するアセスメント 4. 休息・睡眠を促す方法の選択 5. 休息・睡眠を促す方法の実施 	
7 8 9	<ul style="list-style-type: none"> 1. 安楽の意義 2. 安楽を確保する援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 身体的援助：痛みの軽減、安楽な体位、褥瘡 2) 精神的援助：傾聴、タッチング 3) リラクゼーション・マッサージ 3. 安楽を確保する方法の実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) リラクゼーション・マッサージ、褥瘡 	講義 演習
10 11 12	<ul style="list-style-type: none"> 1. 安楽な体位 <ul style="list-style-type: none"> 1) 安楽な体位とは 2) 体位の種類と身体の影響 3) 同一体位の障害 4) 安楽な体位の保持 2. ボディメカニクスを活用した各安楽な体位保持の実際 	講義 演習
13 14	<ul style="list-style-type: none"> 1. 療養環境の構成要素と療養環境調整の必要性 2. 快適さを保つ構造、条件 GW プライバシーを保つことができるアメニティとは 3. 病室の環境と病床内環境 4. 療養環境を整える援助技術 5. 環境のアセスメント GW 6. 障害の種類とニーズ 7. ベットメイキングの実際 <ul style="list-style-type: none"> 1) ベットメイキングの方法 2) 臥床患者のリネン交換 8. ベットメイキングの技術チェック 	講義 演習
15	まとめ 試験	

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）

『看護が見える①』（メディックメディア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 健康的な生活への援助技術Ⅱ

【学 年】 1年次

【担当者】 専任教員

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

《清潔の援助技術》

1. 健康生活における身体清潔の意義を理解し疾病時の清潔の重要性について理解できる。
2. 皮膚および粘膜の解剖、生理を理解し観察ができ、正常、異常を見分けることができる。
3. 衣服のもつ意義について学び健康と衣生活の関連について理解を深め適切な援助ができる。
4. 適切な衣服選択の援助ができ、衣服着脱への援助が出来る。
5. 清潔の援助（全身清拭・洗髪・部分浴・整容・口腔ケア）が原則に基づいて、効果的・効率的に実施できる。

回	授業内容	受業方法
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔の援助に伴って期待される意義 2. 疾病時の清潔の重要性 3. 皮膚の清潔と健康生活 4. ケアが生体に及ぼす反応 <ol style="list-style-type: none"> 1) 入浴と生体の反応 2) 清拭洗浄剤と皮膚の反応 5. 入浴の目的 6. 入浴援助の必要性と援助の方法を考えるためのアセスメントの視点 7. 安全・安楽の確保、プライバシーの保護 8. 入浴に伴う危険とその要因、危険回避の方法 9. 入浴前・中・後の観察項目 10. 入浴・シャワー浴の介助方法 	講義
2	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全身清拭の目的 	講義
3	<ol style="list-style-type: none"> 2. 全身清拭の必要性と援助の方法を考えるためのアセスメント 	演習
4	<ol style="list-style-type: none"> 3. 安全・安楽の確保、プライバシーの保護、体温喪失の防止 4. 全身清拭実施時の観察項目 5. 全身清拭の必要物品と実施方法 6. 全身清拭の演習 	
5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衣生活援助の基礎知識・衣服気候 	講義
6	<ol style="list-style-type: none"> 2. 衣生活に関するニーズのアセスメントと適切な病衣の選び方 3. 寝衣交換の演習 <p style="margin-left: 20px;">点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換</p> <p style="margin-left: 20px;">点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換</p> 	演習
7	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臥床患者の洗髪の方法 	講義
8	<ol style="list-style-type: none"> 2. 洗髪の方法と援助の方法を考えるためのアセスメント 	演習
9	<ol style="list-style-type: none"> 3. 安全・安楽の確保、プライバシーの保護 	

	4. 洗髪実施時の観察項目 5. 洗髪の必要物品と実施方法 6. 洗髪の演習	
10 11 12	1. 手浴の基礎知識 2. 手浴の援助の実際 3. 足浴とフットケアの基礎知識 4. 足浴の援助の実際 5. 陰部洗浄の基礎知識 6. 陰部洗浄の援助の実際 7. 整容の目的と方法 洗面・爪切り・ひげそり 8. 手浴・足浴の演習 9. 陰部洗浄の演習	講義 演習
13 14	1. 臥床患者の口腔ケアの目的 2. 口腔ケアの必要性和援助の方法を考えるためのアセスメント 3. 安全・安楽の確保（誤嚥） 4. 口腔実施時の観察項目 5. 口腔ケアの必要物品と実施方法 6. 臥床患者の口腔ケアの実施	講義 演習
15	試験 まとめ	

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）

『看護が見える①』（メディックメディア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 健康的な生活への援助技術Ⅲ

【学 年】 1年次

【担当者】 専任教員

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

《食事と排泄の援助技術》

1. 食事の意義と栄養・食事に関する基礎知識を理解する。
2. 食事の援助に必要な観察の視点について理解する。
3. 食事援助を受ける対象がおいしく食べる方法を考えることができる。
4. 活動制限や機能障害がある患者の食事介助ができる。
5. 非経口的栄養法の適応条件と種類と注意点について理解する。
6. 対象に応じた食事・栄養摂取方法について看護の視点から考え効果的な援助方法を習得する。
7. モデル人形で経鼻栄養チューブの挿入ができる。
8. 排泄の意義・メカニズムを理解する。
9. 排泄状態のアセスメントの視点と自然排泄を促す方法を理解する。
10. 排泄障害の種類と程度のアセスメントの視点とそれに応じた援助を理解する。
11. 臥床患者に便器・尿器を用いて、排泄介助ができる。
12. 安全な導尿方法を理解する。
13. 膀胱留置カテーテルの管理のポイントを理解する。
14. 尿閉の患者の導尿ができる。
15. 便秘の患者の排泄援助の方法を理解する。
16. グリセリン浣腸の方法を習得する。

回	授業内容	授業方法
1	《事前学習》	講義
2	①食事の意義 生理的意義 心理的意義 社会的意義	演習
3	②栄養素と栄養所要量 ③嚥下のメカニズム ④消化と吸収のメカニズム 1. 食事の意義と食事介助の目的 2. 食事摂取状況のアセスメントの視点 3. 食行動のアセスメントの視点 4. 栄養状態・体液電解質の査定 5. 自助具 6. 食事介助の演習	
4	1. 非経口的栄養法の適応条件と種類	講義
5	2. 経鼻栄養チューブ挿入	演習
6	1)経鼻栄養チューブ挿入に伴う合併症とその要因 2)施前・中・後の患者の観察事項と異常時の対応	

	<p>3) 必要物品</p> <p>4) 経鼻栄養チューブ挿入方法と実践（モデル人形を用いて）</p> <p>3. 経鼻栄養チューブからの栄養剤注入</p> <p>1) 経管、瘻管からの栄養剤注入に伴う合併症とその予防法</p> <p>2) 必要物品</p> <p>3) 経鼻栄養チューブからの栄養剤注入方法</p> <p>4. 経管栄養法の演習</p> <p>モデル人形に経鼻栄養カテーテルを挿入する</p> <p>モデル人形に経管栄養法による流動食を注入する</p>	
7	《事前学習》	講義 演習
8	①排泄の意義	
9	②排泄の種類	
	③腎・泌尿器の解剖・生理 尿の生成と排尿のメカニズム	
	④消化器から肛門までの解剖・生理 便の生成と排便のメカニズム	
	⑤排泄行動	
	⑥排尿・排便障害の種類と原因	
	1. 排泄状態のアセスメント	
	2. 自然排泄を促す援助	
	3. 排尿・排便障害の種類と程度のアセスメント	
	4. 排尿困難の患者	
	1) 尿器・便器を用いる方法	
	2) ポータブルトイレを用いる方法	
	5. 排泄介助の演習	
	《講義後の課題》	
	自分の1日の水分摂取量と排泄量を調べてみよう。	
10	1. 尿閉の患者	講義 演習
11	1) 導尿	
12	①導尿の目的と適用	
	②導尿の種類と使用物品の特徴	
	③カテーテル挿入に伴う合併症とその予防	
	④実施前・中・後の観察項目と異常時の対応	
	⑤導尿方法の手順	
	2) 膀胱留置カテーテルの管理	
	①カテーテル持続挿入によって起こる問題とその予防法	
	②観察事項と異常時の対応	
	2. 導尿の演習	
13	1. 便秘の患者	講義 演習
14	1) 浣腸	
	①浣腸の目的と適用	
	②浣腸の種類と使用物品の特徴	

	<ul style="list-style-type: none"> ③浣腸によって起こる問題と禁忌 ④実施前・中・後の観察項目と異常時の対応 ⑤グリセリン浣腸の手順 <p>2) グリセリン浣腸の演習</p> <p>モデル人形にグリセリン浣腸を実施</p> <p>3) 摘便</p> <ul style="list-style-type: none"> ①摘便の適用を考慮するためのポイント ②摘便によって起こる問題と禁忌 ③実施前・中・後の観察項目と異常時の対応 ④必要物品 ⑤摘便の手順 <p>4) モデル人形を使って摘便の演習</p>	
15	試験 まとめ	1 時間

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）

『看護が見える①・②』（メディックメディア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】 健康的な生活への援助技術Ⅳ

【学 年】 1年次

【担当者】 専任教員、非常勤講師

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

《呼吸・循環を整える技術》

1. 呼吸の生理学的メカニズムを理解し、呼吸困難を軽減する方法を学習する。
2. 対象の呼吸に関するニーズをアセスメントし適切な援助方法を習得する。
3. 効果的・効率的なケアの方法を習得する。
4. 体温調節の生理学的メカニズムを理解する。
5. 体温異常時の援助の方法を理解する。
6. 末梢循環促進ケアの目的と方法を理解し弾性ストッキング・下腿マッサージによる援助を理解する。

《創傷処置》

1. 創傷処置を受けている患者の看護を理解する。
2. 褥瘡予防の基礎知識を習得する。

回	授業内容	授業方法
1	《事前学習》	講義
2	①呼吸器（鼻から肺まで）構造と機能、呼吸機能を見るための検査データ 肺・気管の同定（胸部の位置から）呼吸音の聴取 ②酸素吸入療法の種類と適応 ③酸素ボンベの残量と使用可能な時間の算出方法 1. 酸素療法 1) 酸素療法とは 2) 酸素療法の種類・適応と注意点 酸素補給の場合の注意（ボンベ・パイピング） 3) 酸素療法の実際と評価 4) 酸素吸入法の実践	演習
3	1. 効果的な呼吸方法	講義
4	1) 呼吸の楽な体位	演習
5	2) 安楽な呼吸方法 口すぼめ呼吸 腹式呼吸 2. 痰を喀出する方法と実践 体位排痰法 ハフイング 振動法他 体位ドレナージ 3. 吸入 1) 吸入とは 2) 吸入薬の吸入 4. 超音波ネブライザー吸入の実施と評価	
6	1. 吸引とは	講義

7	2. 吸引の種類と適応	演習
8	1) 一時的吸引と持続吸引 2) 吸引の原理	
	3. 一時的吸引の目的と原則、注意点 口腔・鼻腔・気管内吸引	
	4. 実施と評価	
9	1. 体温とは 2. 体温に影響する因子 3. 体温の平衡 4. 体温調節のメカニズム 5. 体温の異常 6. 体温異常時の援助 7. 末梢循環促進ケア援助の基礎知識と援助の方法が理解できる。	講義
10	1. 創傷とは 2. 創傷治癒過程 3. 創傷のアセスメント 4. 創傷保護の方法と援助の選択 5. テープによる皮膚障害	講義
11	1. 創傷処置の技術の実施	演習
12	創洗浄・創保護（創部のガーゼ・ドレッシング材の交換方法）	
13	ドレーン類の挿入部の処置	
	2. 包帯法	
14	1. 褥瘡とは 2. 褥瘡予防の基礎知識	講義
15	試験 まとめ	1 時間

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術Ⅱ』（医学書院）

『看護が見える①・②』（メディックメディア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】ヘルスアセスメント

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. ヘルスアセスメントとは何かを理解することができる。
2. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義と目的を述べることができる。
3. 対象の身体状況を生活の視点から捉える必要性を理解することができる。
4. フィジカルアセスメントの技術で得られる情報、得られない情報がわかる。
5. バイタルサインの意味を理解し、その測定方法を習得できる。

回	授業内容	授業方法
1	1. ヘルスアセスメントとは	講義 演習
2	2. フィジカルアセスメントとは	
3	1)看護におけるフィジカルアセスメントの目的と重要性 2)医師と看護師が行うフィジカルアセスメントの相違	
	3. フィジカルアセスメントに共通する技術	
	1)視診 2)聴診 3)打診 4)触診	
	4. フィジカルアセスメントに必要な共通の見方	
	1)観察の仕方 2)得られた情報の解釈	
	5. 体内で起こっていることを見極めるために重要なポイント	
	6. カルアセスメントの必用物品と使い方	
4	1. 身体計測の意義 2. 身体計測の方法 1) 体重、身長、胸囲、腹囲 3. 体重、身長のアセスメント	講義 演習
5	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメントの進め方	講義 演習
6	2. 同定	
	3. 呼吸数の測定と評価	
	4. 呼吸音の聴取と評価	
	5. 呼吸パターン、チアノーゼ観察と評価	
7	1. 循環器系の問診、視診、触診、聴診	講義 演習
8	2. 脈拍測定	
9	1)脈拍からわかる体内の状態 2)脈拍測定可能な部位の確認	

	<p>3) 脈拍測定方法</p> <p>3. 血圧測定</p> <p>1) 血圧からわかるからだの状態</p> <p>2) 血圧測定可能な部位の確認</p> <p>3) 血圧測定方法</p> <p>4. 体温測定方法</p> <p>1) 体温測定値からわかる体の状態</p> <p>2) 体温測定可能な部位の確認</p> <p>3) 体温測定方法</p>	
10	脈拍測定、血圧測定（触診法・聴診法）	演習
11	バイタル測定技術チェック	
12	<p>《事前学習》</p> <p>①消化器系の構造と機能</p> <p>②腹部（消化器系）の問診・視診、触診、聴診</p> <p>③腸蠕動音の聴取とアセスメント</p>	講義 演習
13	事例演習	演習
14		
15	試験 まとめ	1 時間

【テキスト・参考書】

『基礎看護技術 I』（医学書院）

『看護が見える③』（メディックメディア）

【成績評価方法】

筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】成人看護学概論

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 成人期における看護の特徴と看護師の役割を理解する。
2. ライフサイクルにおける成人期の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。
3. 成人各期の身体的変化及び生活が健康に及ぼす影響を理解する。
4. 成人保健行動の特徴とそれを促す援助の方法を理解する。
5. 健康の保持・増進・疾病を予防するための保健医療福祉システムを理解する。
6. 成人への看護に有用な概念を理解する。

回	授業内容	授業方法
1	1. 成人（大人）について考える。 個人ワーク 2. 「個人ワーク」を基にグループワーク 3. 発表 4. まとめ	演習
2 3	1. 成人（大人）について考える。 課題1 成人各期における身体的・精神的・社会的特徴、発達課題 成人各期における健康状態・健康問題 課題2 どのような生活を送っているのか。	演習
4	1. 課題1・課題2の発表	演習
5	1. 課題1・課題2のまとめ グループワークの内容を想起し、成人各期における特徴、発達段階、健康状態、健康問題を理解する。	講義
6	1. 成人の健康観と保健行動 2. 成人への看護に有用な概念 病みの軌跡 セルフケア ストレス 危機 適応 自己効力 ヘルスプロモーション	講義
7	課題 1)生活習慣病について理解する。 2)生活習慣病の予防方法について理解する。 3)メタボリックシンドロームについて理解する。	演習
8	課題 まとめ 自分のBMI 計算・腹囲測定・血圧測定を行い考察する。	演習

9 10	1. 成人の健康観と保健行動について考える。	演習
11	1. 現在取り組まれている健康政策について理解する。 「健康日本 21（第2次）」について考える。 2. まとめ	演習
12 13	1. 健康問題に対する看護アプローチの方法を考える。 《演習》 ①「肥満で、運動が必要であるが実行できず、時々間食をしてしまう人に対して、運動を習慣化し間食をしないようにするために、どのような援助が必要か。」 ②「喫煙習慣があり、禁煙の意識がない人に、禁煙しようと思わせるためにはどうすればよいか。」	演習 ロール プレイング
14	1. 演習課題の発表 2. 課題のまとめ	発表
15	まとめ 試験	

【テキスト・参考書】

『成人看護学総論』（医学書院）

『成人看護学概論』（ナーシング・グラフィカ）

【成績評価方法】

筆記試験 提出物 グループワーク

授 業 概 要

【授業科目名】 老年看護学概論

【学 年】 1年次

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

【担当者】 専任教員

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 高齢者の特性を身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉える。
2. ライフサイクルにおける老年期の特徴を学ぶ。
3. 高齢社会における社会保障の動向をふまえ、看護の役割を学ぶ。

回	授業内容	授業方法
1	高齢者理解の入り口	講義
2	高齢者体験	講義
3	身体的変化の体験から、心理的・社会的に与える影響と今後の関わり方	
4	加齢に伴う変化 身体的・精神的・社会的変化からの高齢者理解	講義
5	人口学的指標・健康指標からの老年期の理解	講義
6	高齢者人口の推移・地域格差と県内状況の比較、疾病構造と有病率 受療行動など、要介護者動向、死亡率・死因・死亡場所	
7	高齢者の生活 ライフステージ、発達課題、高齢者生活の特徴	講義
8	高齢社会における保健医療福祉の動向	講義
9	高齢者を支える制度の変遷、介護保険、社会資源	
10	高齢者看護の基本	講義
11	高齢者看護の基本的姿勢、高齢者看護活動の特徴、高齢者の権利擁護、	
12	高齢者看護に役立つ理念・概念	
13	高齢者のヘルスアセスメント	講義
14	高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえたアセスメント、アセスメントツール	
15	筆記試験 まとめ	

【テキスト・参考書】

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学』（医学書院）

『系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論』（医学書院）

『老年看護学概論』（南江堂）

『老年看護学技術』（南江堂）

『老年看護学論と看護の実践』（ヌーヴェルヒロカワ）

『イラストでわかる 高齢者のからだと病気』（中央法規）

『公衆衛生がみえる 2020-2021』（メディックメディア）

【成績評価方法】

授業や演習態度・提出物・小テスト、筆記試験

授 業 概 要

【授業科目名】母性看護学概論

【学 年】1年次

【担当者】専任教員

【単位数】1単位

【時間数】30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. 母性の概念を知り、母性看護の意義と役割を理解できる。
2. 人間の性と生殖の概念と意義が理解できる。
3. リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、女性の人権について考えられる。
4. 母性看護における関係法規が理解できる。
5. 母性を取り巻く現状を知り、母性看護の概要と課題がわかる。
6. 女性のライフステージ各期における看護が理解できる。
7. リプロダクティブヘルスケアが理解できる。

回	授業内容	授業方法
1	母性看護の基盤となる概念の理解① 1. 母性の定義 2. 親になること	講義
2	母性看護の基盤と寝る概念の理解② 1. ヒューマンセクシュアリティ 2. リプロダクティブヘルス/ライツ	講義
3	母性看護の基盤と寝る概念の理解③ 1. ヘルスプロモーション 2. 母性看護のありかた	講義
4	母性看護における倫理 1. 生殖補助医療の現状 2. 生殖補助医療とその問題点 3. 意思決定とその支援	講義
5	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状① 1. 母性看護の変遷 2. 母子保健統計の動向 3. 母性看護に関する組織と法律	講義
6	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状② 1. 母子保健に関する施策 2. 母性看護の場と職種 3. 母性看護の対象を取り巻く環境	講義
7	母性看護の対象理解① 1. 性周期 2. 妊娠の成立と性分化	講義
8	母性看護の対象理解② 1. 現代女性のライフサイクルとライフスタイル 2. 伝統的な性役割感とワークライフバランス 3. 家族の発達段階	講義
9	ライフステージ各期における看護 思春期の健康と看護① 1. 2次性徴 2. アイデンティティの確立 3. 月経異常と看護	講義
10	ライフステージ各期における看護 思春期の健康と看護② 1. 性感染症と看護 2. 人工妊娠中絶と看護 3. 性教育	講義
11	ライフステージ各期における看護 性成熟期の健康と看護① 1. 性成熟期の特徴 2. 月経困難症と看護 3. 家族計画	講義

12	ライフステージ各期における看護 性成熟期の健康と看護② 1. 家族計画 2. 性暴力を受けた女性に対する看護	講義
13	不妊症と看護 ライフステージ各期における看護 成熟期の健康と看護③ 1. 不妊症と看護	講義
14	ライフステージ各期における看護 更年期・老年期の健康と看護 1. 更年期・老年期の特徴 2. 更年期障害と看護 3. 尿失禁と看護 4. 骨盤臓器脱と看護	講義
15	試験 まとめ	

【テキスト・参考書】

『系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学 1』（医学書院）

『傾向看護学講座 解剖生理学』（医学書院）

『病気がみえる 10 産科』（メディックメディア）

『病気がみえる 婦人科』（メディックメディア）

『公衆衛生がみえる』（メディックメディア）

『出生前診断と選択的中絶のケア』（MC メディカ出版）

『わが国の母子保健—令和3年—』（母性衛生研究会）

『性の健康と相談のためのガイドブック』（中央法規）

【成績評価方法】

筆記試験・課題

授 業 概 要

【授業科目名】 精神保健

【学 年】 1年次

【担当者】 非常勤講師

【単位数】 1単位

【時間数】 30時間（1回2時間）

（当該領域の実務経験あり）

【学習目標】

1. こころの機能と発達を理解し、心の健康を理解する。
2. 危機への概念を理解し、精神的反応と適応について理解する。
3. リエゾン精神看護について理解する
4. 生活の場における精神保健を理解する。
5. 看護師の精神の健康課題を理解する。
6. 精神保健医療福祉の歴史を理解する。
7. 精神障害者に関する法律を理解する。
8. 精神の健康に関する普及啓発について理解する。
9. 精神保健医療福祉に関する社会資源と多職種を理解する。

回	授業内容	授業方法
1	精神の健康の概念	講義
2	精神保健の理解 精神障害の予防 予防の概念と予防活動の取り組み 精神の発達や構造の理解 フロイト 精神力動論 エリクソンの発達論	
3	危機概念の理解	講義
4	危機に対する精神的反応 ストレスと対処 防衛機能	
5	リエゾン精神看護と歴史 リエゾン精神看護専門看護師の活動の実際 リエゾン看護の対象とケアの実際 不眠 抑うつ せん妄	講義
6	家族・家庭の精神保健 学校の精神保健 職場における精神保健	講義
7	燃え尽き症候群 新人看護師のリアリティショックとメンタルヘルス対策 病棟管理者の精神の健康	講義
8	諸外国における精神医療・看護の歴史	講義
9	日本における精神医療・看護の歴史	
10	精神病者看護法から精神保健福祉法までの歴史	講義
11	障害者総合支援法	

12	偏見、差別の現状 心のバリアフリー宣言	講義
13 14	地域精神保健活動における資源 行政機関 訪問看護 精神科デイケア・ナイトケア 地域精神保健活動に関わる人々 精神障害者保険福祉手帳 障害者総合支援法による支援	講義
15	試験 まとめ	

【テキスト・参考書】

『精神看護学Ⅰ』（ヌーヴェルヒロカワ）

【成績評価方法】

筆記試験 授業の参加状況